

令和8年度新城市シルバー人材センター 事業計画

令和8年度から新城市シルバー人材センター（以下「センター」という。）は、除草（草刈）及び剪定において完全請負制度を本格導入します。

これは、会員が「特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律（フリーランス・事業者間取引適正化等法）」の特定受託事業者に該当するためです。

これまでの作業時間による精算方式から、会員による現場見積（発注者の立会）を行う方式に移行し、包括契約の実効性を高めることを目的としています。導入当初は発注者への説明、未経験の就業会員が抱く不安などが想定されるため、これまで以上に会員へのサポート体制を強化します。

スマートフォン等の就業利用を開始した段階から、さらに活用を進める段階「シルバーデジタル2.0」※を推進し、会員のデジタルスキル向上につながる講習や相談会を開催します。会員の理解を深めながら事務効率化と経費削減を図ります。

また、令和7年度に全国シルバー人材センター事業協会（以下「全シ協」という。）の「新しい仲間づくり計画」を反映したセンターの「第4次中期計画」について、数値目標をより現実的なものへ見直し、最終年度（令和9年度）の目標達成に向けて取り組みます。

高齢者等の雇用政策の進展による影響などを踏まえて、近隣センターとの状況を勘案しつつ、これまで一般家庭向けに軽減措置として適用してきたセンター業務委託料の比率を10%から12%に引き上げます。これにより、会員を取り巻く厳しい状況の改善や就業環境により柔軟に対応できるセンター運営を目指します。

令和8年3月末のセンターの会員数は599人で、昨年度と比較して15人減少し、その内訳は、男性が20名減少、女性が5人増加です。今後も引き続き、女性委員会を中心に創意工夫を凝らした活動により、女性会員を確保しつつ、男性会員の増加にもつなげます。

昨年度の事業実績として、請負事業は約732万円の減小、派遣事業の契約金額は約551万円の増加となっています。この状況を踏まえ、当センターの魅力を最大限に伝える「設立40周年記念事業」を行い、次の10年への飛躍の年とします。安定的かつ持続可能な事業運営を図るため、会員各位のより一層のご協力・ご支援をお願いいたします。

※「シルバーデジタル 2.0」とは、令和5年度を「デジタル元年」と位置付け、シルバーの仕事における情報伝達をスマートフォン等へ移行した取り組みをさらに発展させ、従来の概念や仕組みが大きく変革された状態（就業DX）を指します。

【事業実施計画】

1 就業機会の確保と組織的提供事業及び会員数の増加（請負、委任）

- ・新たな就労先を開拓するため、公共職業安定所や商工会、行政機関などとの連携を密にして情報収集を進めるとともに、電話による営業活動も検討する
- ・剪定、除草（草刈）などの受注実績データを活用した年間業務スケジュールを定め、効率的な就業を目指す
- ・会員への迅速で公平な就業機会を提供するため、会員への携帯電話ショートメッセージ送信サービスやスマートフォン会員個人マイページ（以下「Smile to Smile」という。）の活用を推進し、業務の効率化、省力化を実現する
- ・就業機会の拡充に伴い不足する会員の確保を図るため、ポイント制度による「新規入

会会員募集」、さらに、出張入会説明会も含めた「会員懇談会」を行う

- ・市からの委託事業である「介護支援ボランティア制度」、「訪問介護支援事業」を充実させ、ゴールド会員制度と併用して、高齢化による退会を抑制する

2 指定管理事業

- ・令和7年度から令和11年度までの5カ年間、いきいきライフの館、鳳来高齢者生きがいセンターの指定管理者として、会員の就業施設としての機能向上、さらに一般利用者にとって「使いやすい」施設管理を目指す
- ・施設の経年劣化に伴う老朽化対策について、市と協議しながら、計画的な施設修繕を行い、施設機能の利便性の向上を図る
- ・利用率の向上のため、会員はもとより、市内の60歳以上の方へ機関紙等活用して利用案内を行っていく

3 有料職業紹介事業（雇用）

- ・市内事業者と会員に対し、有料職業紹介事業への取り組みを周知する
- ・地域の実情に応じた高齢者の多様な就業機会を確保するため、公共職業安定所や商工会、行政機関などと連携して事業展開を図る

4 労働者派遣事業（派遣）

- ・公共職業安定所や商工会、行政機関の関係機関と連携し、人手不足となっている事業所の求人情報を収集し、速やかにシルバー派遣会員の確保に努める
- ・シルバー派遣事業を推進するため、担当職員の養成、確保を図る
- ・会員の就労機会増加に伴い、個人情報保護の意識向上のための派遣説明会を実施する
- ・愛知県シルバー人材センター連合会（以下「県シ連」という。）による派遣事務の集中化の効果を確実なものとし、当センターの派遣労働会員に対する給与明細等の「Smile to Smile」による電子化を進める

5 知識及び技能の付与を目的とした講習会等の実施

- ・安全対策としての草刈機等の機械や器具の正しい使用方法を学ぶ講習会を、複数回実施する
- ・「介護支援」、「清掃」など生活にも密着した講習会や、木工、しめ縄作り、剪定、など幅広い講習会を計画し、独自事業への参加会員の増加を図る
- ・会員及び一般高齢者を含め、スマートフォン等の活用を推進し、シルバー人材センターの業務の効率化を図ることはもとより、そのスキルを就業に結び付けていく
- ・県シ連の育成事業等と連携し、東三河地区のシルバー人材センターと協力した剪定技能講習会や清掃就業体験を実施し、就業意識の向上を図る

6 調査研究事業

- ・フリーランス法への対応として、草刈り作業面積、剪定による樹種別単価の見直しを検討委員と情報共有し、継続的に改善を行う
- ・会員を対象に「就業希望調査」を実施し、データを活用してシルバー会員が求める就業を提供することで、会員の満足度を高め、退会会員の削減につなげる
- ・年間を通して開催する各種講習会、教室の受講者からのアンケート内容を、今後のシルバー事業運営に役立たせる
- ・発注者に対する「就業後の調査」でのご意見を、シルバー会員への指導、事務局の対

応の改善に生かす

- ・職員による視察などを行い、先進地センターとの交流による事業活性化を図る
- ・新公益法人会計基準への円滑な対応ができるよう、積極的に外部研修等に参加していく

7 相談事業

- ・シルバー人材センター入会希望者への個別説明や、説明会後の個人面談で就業希望、要望を聞き取り、きめ細やかな入会後の就業相談を実施していく
- ・市民及び企業からの依頼などの問い合わせに、会員（高齢者）にとって安全及び適正就業の面からふさわしくない場合については、民間事業者を紹介していく
- ・新たな行政サービス、行政需要（生活弱者への支援、農業支援、ふるさと納税、空き家対策、ボランティアポイント制度など）の受け皿として相談にあたる
- ・スマートフォンの相談が、気軽にできる機会を継続しつつ、新たなニーズに対応する講習会等をスキルや知識のある会員が行っていく

8 安全・適正就業推進事業

- ・会員の高齢化などに起因する認知力低下、運動機能の低下による事故が散見されることから、シルバー人材センターの安全・適正就業対策基本計画による今年度事業計画実施事項を確実に進め、安全目標を達成する
- ・シーズン前の草刈安全講習会や会員の健康に関する講座等の開催により安全・適正就業の推進を図り、会員の就業支援としての熱中症対策等を検討していく
- ・安全委員会を定期的を開催するとともに、委員による安全適正パトロール巡回指導の回数を増やして、より細やかな安全対策活動の推進に努める
- ・民間保険会社との連携を深め、就業事故の原因分析と対策を、機関紙への掲載や定時総会、各種会議の場を活用し会員に周知し、再発防止に努める
- ・全シ協や県シ連が開催する安全事故防止キャンペーンや研修会等に積極参加し、安全就業に反映させる

9 センターの活動等について周知を図る事業

- ・シルバー感謝ウイークの就業現場見学、地域での「ボランティア活動」の実施、「設立40周年記念事業」の開催により、市民へのシルバーの魅力を伝える
さらに記念事業と同時開催を予定している県シ連の主催する「あいちイキイキシルバー人材フェスタ in 新城」に参加し、東三河の市民へのPRも共同して行っていく
- ・地域の情報誌やケーブルテレビの取材協力のため、当センターの活動内容、状況を「プレスリリース」として随時行っていく
- ・ホームページやインスタグラムを活用して、シルバー人材センターの活動内容や会員の入会促進に向けた情報発信をしていく
- ・市役所広報紙「ほのか」への掲載及びシルバー機関紙「頑張らまいかん」、募集チラシの市内新聞折込を実施し、就業紹介や入会案内を行う
- ・女性委員会が、女性に特化した教室・旅行を実施し、会員確保のため広く市民に周知を行う
- ・広報部会を定期的を開催し、情報発信方法などを随時検討していく

10 その他 センターの目的を達成するために必要な事業

- ・市から委託事業 介護支援ボランティア事業「しんしろ支え愛ボランティア事業」を

実施する

- ・「設立40周年記念事業（会員交流事業と対外事業）」を開催する

11 シルバー人材センターの財政基盤の安定を図る

- ・国の政策、方針に沿った事業展開による国庫補助金の確保に努める
- ・最低賃金の大幅な上昇や、諸経費の高騰などの社会環境の変動に対応し、請負・委任に係るセンター業務委託料の比率見直しを行い、財政基盤の安定を図り、市へ補助金の現状維持を求めている
- ・時代に即応したデジタル機器等の活用や電子申請手続きの事務効率化による事業展開を推進し、将来を見据えた無駄をなくした効率的な財政運営に努める
- ・外部の協賛や寄付等の活動の検討を行う

12 公益社団法人の適正な運営

- ・公益社団法人としての適正な事業運営を行うとともに、役員や委員会委員の職務執行・責任の対価としての報酬による体制の充実整備を行う
- ・シルバー人材センターの設立目的に沿った公益事業を推進する
- ・会員、役員と事務局が一体となった活力のある事業運営を図る
- ・個人情報保護や法令順守（コンプライアンス）等の研修や職員勉強会を計画的に実施する
- ・会員のシルバー人材センターの事業・行事参加の積極的取り組みに対する「シルバーポイント制度」を随時改善し、会員の自主性の醸成を支援する